

グローバリゼーションの時代を生きる -世界の破局にどう立ち向かうのか-

講演者 齊藤 日出治 氏 (さいとう ひではる)

《講演者からのメッセージ》

グローバリゼーションとは、国境の仕切りを取り払って市場競争を推し進め、かぎりなき経済成長を追求する運動だと言われています。ところが、この運動は、自由、平等、豊かさ、安寧という理念を掲げながら、それらの理念とは真逆の世界的な破局を招きました。それは、極端な格差と不平等、環境危機、難民と移民の急増、ひとびとの生活と文化の破壊、局地的戦争と暴力、世界戦争の脅威をもたらしたのです。それは人類を死に追いやろうとする動きにほかなりません。

わたしたちはしだいにそのことに気づくようになっています。

この脅威を察知したひとびとは国家に救いを求めようとして、国家にしがみつきます。ところが、国家はグローバリゼーションをコントロールする力を発揮するどころか、ひとびとの不安の意識を他国・他民族・移民に対する憎悪に向けて誘導します。こうして、国家間の紛争と戦争の脅威がさらに高まっています。わたしたちはこのような世界の悪循環が進行する世界の真っただなかに生きているのです。

この講演会では、わたしたちが投げ出されているグローバリゼーションの時代とは何かを考え、その時代を生き抜く道筋をこれからの未来を担う若いみなさんとともに考えてみたいと思います。

講演者略歴

1945年長野県生まれ。1969年、東京外国语大学卒業。1976年、名古屋大学大学院経済研究科博士課程修了。元大阪産業大学教授・副学長。現在、大阪労働学校アソシエ副学長。
著書に『物象化世界のオルタナティブ』、『ノマドの時代』、『国家を越える市民社会』、『帝国を超えて』、『グローバル化を超える市民社会』など多数。

現在、グローバリゼーションがもたらしている危機的事態とその目指すものを私たちは正しく理解しているであろうか？

あなたたちが目指す大学の場でも、いま、このグローバリゼーションに適合的な人間を作り出すための改編、改革が急速に進んでいる。

判断と格差、憎悪と排除、環境と文化の破壊…その先に見えるものは何か？

それを見据え、世界の破局に立ち向かう視座をつかむために、グローバリゼーションの批判的認識を長年にわたって追究してこられた社会学者齊藤日出治先生のお話を聞きたいと思う。

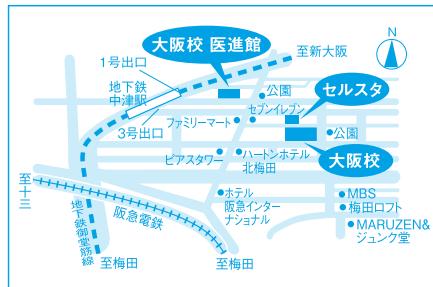
日本史料講師 青木和子

●日時 9月16日(土)
17時20分～18時50分(予定)

●会場 河合塾 大阪校

入場無料

*定員の都合により整理券を発行する可能性があります。



河合塾 大阪校
0120-070-471

〒531-0072
大阪市北区豊崎3-13-1

[アクセス]

- 地下鉄御堂筋線「中津」駅下車3番出口 徒歩2分
- 阪急「中津」駅下車 徒歩6分
- 阪急「梅田」駅下車 徒歩6分

河合塾